

授業科目：	解剖学概論		
科目区分：	保健福祉学部 専門科目の基礎となる科目	受講者数：	160名
担当者：	津森 登志子（保健福祉学部看護学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型（※行動型・参加型ALを組み合わせ実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	クリッカーを使用した双方向支援授業		

1. 授業の概要と目標

看護学科・理学療法学科・作業療法学科・コミュニケーション障害学科の必修科目で1年前期開講。1年後期以降展開されるすべての解剖学関連科目の基礎となる位置付け。国家試験にも出題のウェイトが多い分野。医療系大学に入学後の初めて本格的に学ぶ医療専門科目の一つであるため、本科目への取り組みは単に解剖学の知識の基盤定着だけでなく、医療系学生としての学修スタイル確立の是非に関わる。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名 解剖学概論

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> 講義1週間前にはポータルに講義資料を掲示。学生は事前に入手して目を通し、テキストの関連項目にも目を通しておくことが要求される。 学生は講義室に集合するとすぐに前回の講義範囲を復習してテストに備える。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の講義資料の最後に、講義のサマリーを箇条書きに整理している。学生にはまずサマリーから目を通して講義概要を把握することを勧めている。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 講義開始直後に、前回の講義範囲のうち特に重要な項目についてクリッカーを使用した復習テストを行う。1問五択形式で4問を出題。 1問ごとに全員の回答状況をグラフで提示した後答え合わせを行い、学生は絶対的位置(正誤確認)と相対的位置(正解者の割合確認)を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 難解な問題(正答率が低すぎる問題)は避け、回答意欲を削がないように留意する。 問題にバリエーションをつける(正誤問題、図の名称、語句選択等) 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> テストを通して、自分の理解度や重要項目の把握度を学生自身が省察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答への導き方をその都度丁寧に解説する。 正答率が悪かった内容については後日、別の角度から再度出題するなど、繰り返す。 	

3. 成果・効果

- ・大人数の受講者、大講堂での講義という形式での授業スタイルでの双方向授業を可能にする。
- ・教員がリアルタイムで学生の回答状況や理解度を個人レベル、学科レベルでも把握できる。
- ・適時のフィードバックが可能になる。
- ・理解度が低い内容については繰り返して問題提起を行い、その都度習得度を確認できる。
- ・アンケート調査の結果、全学科の大部分の学生がこの形式を支持し、継続を望んでいた。
- ・クリッカーを使用した一連の復習テストの実施は、自学自習に対するモチベーションを上げ、受講準備を整えることに効果があると思われた。

4. 課題

本システムはポータブルでどの教室でも利用でき、多様な講義・演習で様々な使い方ができると思われるが、他の教員になかなか波及しない。

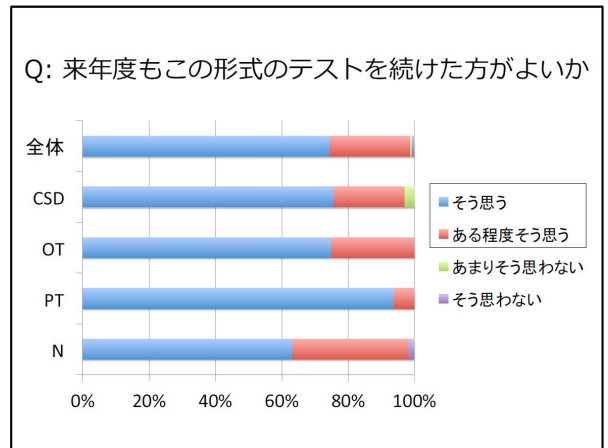
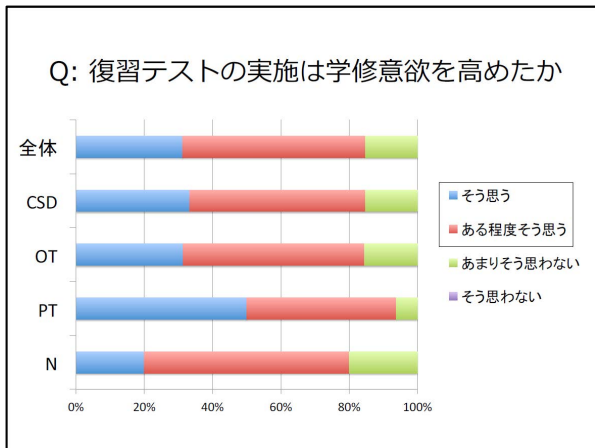
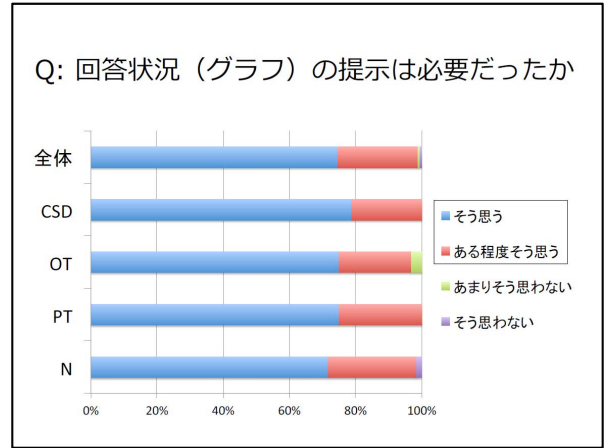
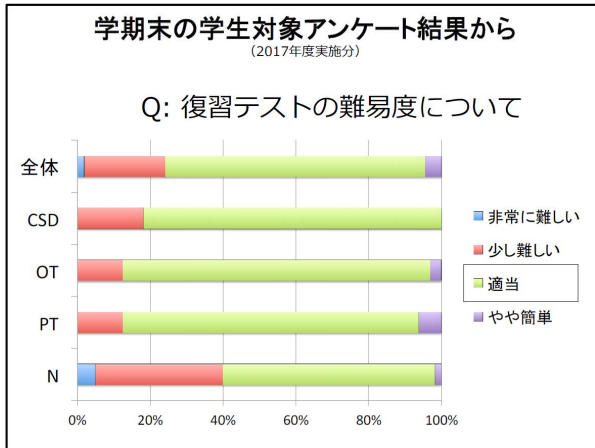
5. 資料

授業評価の自由記載の抜粋（下記）、アンケート結果の抜粋（別紙添付）

―授業評価・自由記載から抜粋― 「クリッカーによる復習テスト」の実施について

・クリッカーを使用する小テストはゲーム感覚で楽しく学べてよかった
・小テストで自分の理解できてないところを発見することができてよかった
・復習の1つの目標となって良かった。これからも続けて欲しい
・小テストをしてその場で解答が分かるのは、知識が定着しやすいと思いました。
・みんなで競いあってできてよかった
・自分の習熟度や不足している点がよくわかって良かったです
・大変役に立ちました。あの結果を見て、勉強しようと思えたので、ぜひ続けてほしいです
・これからもこのシステムを続けてほしいと思います
・クリッカーのおかげで苦手なところがわかったから続けてほしい

ークリッカーを使用した解剖学概論の復習テストに関してー
(アンケート結果の抜粋)



N:看護学科
PT:理学療法学科
OT:作業療法学科
CSD:コミュニケーション障害学科